1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570400410		
法人名	社会福祉法人 萩市社会福祉事業団		
事業所名	萩市中津江認知症高齢者グループホーム なごみ		
所在地	山口県萩市大字椿東315-6		
自己評価作成日	平成30年7月27日	評価結果市町受理日	平成30年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三食調理を実施している。食材買出しから、食事前の下拵えや調理、盛り付けを利用者と一緒に行うことで、食事前の匂いや音など五感を刺激し、家庭的な雰囲気の中で『食』への関わりを持つことが出来ている。献立については、調理献立部会の中で利用者にも参加してもらいながら、旬な食材や地産地消、嗜好品を取り入れながら作成を行っている。
 家族参加の交流行事を企画し、利用者と家族との関係性が継続できるように支援している。また、生活が室内だけに留まらないように、地域へ外出する機会を多く持つようしており、自宅や馴染みのある場所への外出だけでなく、地域行事への参加、外来受診や買い物など、地域との関係性においても継続できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居前には自宅訪問をされ、周辺の環境やこれまでの暮らし方、趣味等を把握され、利用者が馴染んだ習慣や好みが入居後もできるだけ継続できるように支援をしております。利用者は馴染みの美容院や化粧品店の利用、馴染みの商店での買い物等、馴染みの暮らしを継続しております。家族には毎月利用者の1ヶ月の様子を写真入りで送付しておられ、希望されれば家族の必要枚数を送付されたり、面会時には個別に作成しているアルバムを見ていただくなど、家族との安心と信頼に向けた関係づくりに努めておられ、本人や家族からの意見や要望を言いやすい工夫をされたことで、入浴時間を本人の習慣となっている18時から19時の間でも可能とされるなど、本人や家族の意見や要望を運営に反映されています。食事は三食とも買物から調理、食事、後片付けなどを、利用者のできることを活かしながら職員と一緒に事業所でつくっておられます。お好みメニューやバイキング形式の食事、おやつづくりなど食事への関心や食欲を高めるよう工夫をされ、食事を楽しむことのできる支援をしております。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度始めには、職員全体会議の中で理念と事業計画の確認を行っている。また、理念は玄関に掲示し、共有しながら常に意識付けできるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。年度当初の会議の中で、活動計画と理念との関連について具体的に話し合いをしている。職員はカンファレンス時や日々のケアを実践する中で、常に理念に立ち返り、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(清掃活動や盆踊り大会、七夕祭り、ふるさと祭り等)や保育園行事(運動会や発表会)に参加するなど、地域の住民や子ども達と交流する機会を継続している。また、食材や日用品は地域スーパーへ買い物に出掛け、美容院や理髪店、化粧品店は行き付けの店に行くなど、地域へ出掛ける機会を多く作るようにしている。	利用者と職員は年2回ある地域の清掃作業に参加している他、町内の盆踊り大会、出身地域(川上、福江、むつみ)のふるさと祭り、市の七夕祭りには毎年作品を出展して参加している。今年度はペットボトルのラベルでつくった作品を出展して商店街会長賞を受賞するなど、作品づくりを利用者は楽しみにしており、地域からも出展を通しての交流を期待されている。併設施設合同の夏祭りにはむつみ神楽のイベントがあり、地域にも呼び掛けて多くの人の参加がある。利用者は地元の保育園に年2回訪問し、運動会の見学や利用者による伝承遊び(羽子板、お手玉、コマ、かるた、紙風船など)を通して園児と交流している。ボランティア(傾聴、お話、草取り)の訪問がある他、デイサービス事業所に大正琴のボランティアが来訪時には出かけて交流している。散歩時や買物時には近所の人と挨拶を交わし、花や果物、野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。県立大生や萩看護学校の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GH入所申込の際に、認知症の方へのケア方法について相談あり、助言等を行っている。代表者は、地域住民に向けて認知症講座の講師を担うなど、認知症ケアについて発信している。社会福祉協議会の傾聴ボランティアや、近隣住民のボランティア受入も行き、認知症の方への対応について適宜相談等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を全職員に配布し、各自記入する中で職員の思いや取り組みを管理者が取りまとめている。日頃、実践していることの意義や理念に立ち返る良い機会となっている。	管理者は評価の意義について職員に説明し、評価をするための書類を全職員に配布して記入してもらい、一人でまとめている。職員は自己評価を通して日々のケアを振り返り、職員の思いと実践できていないことへのジレンマを感じており、食事づくりや地域との関係づくり、家族との関係調整などの課題について検討を始めている。前回の外部評価結果を受けて、事故防止のための看護師による定期的訓練の実施や災害時の地域との協力体制を構築するために地域メンバーを緊急連絡網一覧に加えるなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者2名(ユニットから1名ずつ)、家族3名、社会福祉協議会、高齢者支援課職員、在宅介護支援センター職員、消防分団員、県営住宅管理人、グループホーム管理者及び職員、施設管理者が出席し、2ヶ月に1度昼間に開催している。入居者状況や活動報告や事故報告等通して、意見交換を行っている。3食調理を行っていることから、会議後に昼食会も実施している。	会議は2カ月に1回開催し、利用者の状況や活動状況、事故報告、自己評価や外部評価について、災害時の訓練等の報告、熱中症の予防について話した後、話し合いをしている。昼食会を実施して親睦や交流をしているなど、工夫をしている。災害内容や災害時の二次的避難場所について話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新申請時や主治医意見書の取り寄せ等、介護保険課訪問時に情報交換を行っている。また、運営推進会議に介護保険課担当職員が参加しており情報交換や相談等行っている。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出かけて情報交換や申請内容と手続き、運営上の疑義、市のサービス、困難事例の相談を行い助言を得ているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換を行い連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルあり。身体拘束廃止部会が中心となり、『身体拘束廃止に関する指針』について、話し合いを行う中で不適切なケアが行われていないか検証している。また、所内研修を通じて、身体拘束を行わないケアの取り組みを行っている。玄関施錠はしていないが(夜間帯除く)、安全管理上、玄関チャイムを設置している。ユニット間での移動についても、自由かつ安全に行き来できるよう、見守りや声掛けを行っている。	マニュアルを基に内部研修を行い、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。月1回の全体会議では「身体拘束廃止部会」を中心にスピーチロックも含めて、身体拘束をしていないかを話し合っている。不適切な対応があれば管理者が指導し、職員間でも注意し合っている。玄関には施錠をしないで外出したい利用者とは職員と一緒に出かけているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修において、高齢者虐待防止法について研修している。虐待防止の意識を持ち、不適切なケアが行われないように、利用者への声掛けや関わり方など職員間でも話し合うようにし、抑制・拘束のないケアに取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業1名、成年後見制度1名の利用者が制度を活用されている。両制度に対する知識を持てるように所内研修を行なっているが、全職員がしっかりと理解するまでには至っていない為、研修の継続が必要。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約事項や重要事項について、十分説明を行うようにしている。説明事項も多く、利用者・家族等からの不安や疑問には、適宜説明を行い、納得の上で署名・捺印をいただくようにしている。契約解除に至る場合にも、説明と話し合いを持ちながら解除を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情や相談の受付体制、第三者委員、苦情処理手続について家族へ説明している。玄関に、苦情目安箱を設置し、意見を出してもらえるような環境作りに努めている。 面会時だけではなく、運営推進会議や家族交流行事へ参加してもらう中で、意見や要望などを直接伺うようにしている。遠方の家族については、お便りや電話で交信するなど情報交換を行うようにしている。	相談や苦情の受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時や運営推進会議時、年2回の家族交流会時、行事参加時、電話等で意見や要望を聞いている。苦情目安箱を設置している。毎月、家族宛に利用者の暮らしの様子を写真入りで送付している。希望があれば必要な枚数を印刷して送付しているなど、家族からの意見がでやすいように工夫している。利用者から夜間入浴の希望があり、入浴時間を18時から19時迄入浴可能にするなど、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回実施している全体会議やユニット会議を通じて、職員からの意見を求めるようにしている。また、事前に職員用回覧を活用し情報を周知している。夜勤者の業務内容について負担軽減ができないか、全体会議にて職員の意見を聞きながら話し合いを行った。	施設長や管理者は、月1回の全体会議やユニット会議、部会会議、年2回の個人面談の中で職員から意見や提案を聞いている他、職員用回覧や各部会活動(リスクマネージメント、広報、行事、調理献立、身体拘束廃止)の中で、いつでも意見や要望が言えるように雰囲気づくりに努めている。職員からは夜勤業務の見直しや休憩時間の確保についての意見があり、現在、全体会議の中で検討をしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の希望休や有給休暇が取得しやすいように勤務調整を行なっている。半年に1度は管理者が職員と個別にて面接を行い、意見を聞く機会を設けている。就業時間内での業務が行えるように、業務改善を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の希望や経験に応じて外部研修へ参加することで、知識や技術のスキルアップ、他施設職員との情報交換、資格取得につながるよう支援している。 所内研修においては、講師を職員間で担当し資料作成を行うなど自己学習の場にもなっている。</p>	<p>外部研修は、情報を職員に伝えて、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命書を提出し、全体会議の中で報告をして全員が共有し、資料はいつでも閲覧できるようにしている。法人研修は、初任者研修を入職時、3ヶ月後、3年未満時に実施している。内部研修は、年間計画を立てて、施設長や管理者、看護師、職員が講師を務め、認知症について、緊急時の対応、医学の基礎知識、薬の知識、バイタルサインの正確な測定方法、AEDの使い方、高齢者虐待、身体拘束、倫理、接遇等を実施している。新人職員は、法人研修の後日々の業務の中で、管理者や先輩職員から介護の知識や技術について学んでいる。職員は5つの部会(リスクマネジメント、広報、行事、調理献立、身体拘束廃止)の役割を通して学んでいる。資格取得の支援をしている。</p>	
15		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>山口県宅老所・グループホーム(以下GH)協会へ加入し、研修会へ参加することで、施設見学や研修会に積極的に参加している。管理者がGH協会理事を務めており、県内GHとの情報交換等を行いながら、サービスの質の向上に努めている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には在宅訪問やサービス利用時の状況把握を行いながら、要望や不安などしっかりと聴くようにしている。 申込時には施設見学を勧めており、希望があれば、ショートステイを利用してもらおう中で新たな生活での不安解消に努めるようにしている。</p>		
17		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>これまでの生活状況を伺う中で、困っている事や不安な事をしっかりと聴くようにしている。事業所としての出来る事を伝え、家族にも協力を求めながら、家族との関係性を作るようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実情や要望を聞く中で、緊急性がある場合は必要に応じて他施設の情報や空室状況等を確認し情報提供するようにしている。情報提供した際には、担当ケアマネと連絡を取り情報共有するようにしている。 在宅サービスの詳細や特性を知りたいと希望する方も居り、居宅支援事業所へ結びつけたケースもある。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でのコミュニケーションを多く持つようにしている。『できること』を見極めながら、家事全般(調理や洗濯、掃除など)において、一緒に行う事で同じ時間を共有し、利用者の力が発揮できるように支援している。 時には、子育て相談や料理の方法を教わる機会もある。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流行事として、遠足や夏祭り、忘年会等を企画している。七夕の作品作りでは面会時に家族と一緒に作品作りを行うなど、利用者対家族対職員との関係性を維持出来るようにしている。 面会時には日常生活や受診の様子など伝えているが、遠方の家族には電話やお便りを通じて状態を共有するようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人等の来訪があり、面会だけではなく電話や手紙、葉書や年賀状での交流を継続することで、馴染みの人と関わる機会を作るようにしている。自宅や行きつけの美容院、化粧品店、スーパーや飲食店、係りつけ医など馴染みの場所との関係性も継続できるよう、外出支援を積極的に行っている。	家族の面会や親戚の人、友人、職場の同僚、近所の人々の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みの美容院の利用、化粧品店や商店の利用、自宅への帰宅などの支援をしている。利用者一人ひとりのアルバムを作成して、家族の面会時には日々の暮らしの様子を写真で見てもらおうなどの工夫をしている。家族の協力を得て、自宅に仏壇を拝みに帰るなど一時帰宅、寺参りや墓参、法事や結婚式に出席、外出、外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で座席位置やレク活動など利用者同士での会話や役割を通じて協力できる場面を作り、孤立しないようにしている。一人一人の個性や主張が異なる為、トラブルになることもあるが、利用者同士の関係性を上手く保てるように、職員が間に入り、双方の不安・不満解消に努めるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、退去先へ訪問し経過を見守るなど関係を断ち切らない支援を行うようにしている。また、家族の不安があれば相談を受ける体制も取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前には、本人や家族、担当ケアマネージャー等から生活歴や健康状態、趣味などの情報を収集し、自宅での生活状況を確認しながら意向の把握に努めている。 入居後は、日頃からの会話や関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや希望、意向について把握するようにしている。中でも、居室の環境作りについては出来る限り意向に添えるように工夫するようにしている。	入居前には自宅を訪問して周辺の環境やこれまでの暮らし方や趣味、意向を情報収集して「基本情報シート」に記録し思いや意向の把握に努めている。日々の関わりの中での利用者の発した言葉や表情、行動を「日々の記録」に記録して思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。把握が困難な場合には職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の歴史や在宅でのサービス状況、入所前の医療等、について把握するようにしている。また、馴染みや思い入れのある場所へ外出することで、自宅での生活に近い環境が入居後も継続出来るよう支援している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム(食事や睡眠、排泄等)を把握し、その時々々の体調やペースに合わせて生活出来るようにしている。日常生活の中で、「できる事」「できない事」を把握しながら、余暇活動や趣味、調理や掃除など「できる事」は生活の中で継続して行えるよう環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と利用者の担当職員を中心に、毎月のユニット会議内でカンファレンスを実施し、必要なケアについて協議しながら、介護計画書を作成するようにしている。状態変化があれば、随時モニタリングを行いながら、現状にあった介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になって、月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意見、主治医の意見を参考にして職員で話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状態に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活面や健康状態、本人の言葉など、事項の詳細や具体的な内容については『日々の記録』としてPC内に記録し、食事・水分摂取量、排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子などは『介護記録』に記録している。 受診の内容や特変、夜間の様子など連絡事項があれば業務日誌への記録を行い、申し送りにて職員間での情報共有に努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用型共同生活介護を実施している。入居への不安がある利用者や家族の意向に合わせて短期間で利用をする方もいる。その時々思いに対応できるようにケアマネージャーと連携を図るようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練では、消防署や地区消防団員、県住宅管理人の協力を得ている。また、地区盆踊り大会へ参加することで近隣住民との関わりも持つようにしている。 傾聴ボランティアとして、社会福祉協議会や地域住民の受入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に合わせて、馴染みの医師による医療を継続して受診できるよう支援している。他科受診(眼科や歯科、皮膚科等)複数科の受診についても、利用者と家族の意向を伺いながら、必要に応じて家族の付き添いを依頼している。受診結果については、適宜家族に報告している。緊急時にも係りつけ医や協力医と連携し適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関をかかりつけ医としている利用者は月に1回、受診支援をしている。訪問診療を受けている利用者は月2回、往診がある。他科受診も事業所で支援している。受診結果は電話で家族に伝え、職員は業務日誌に記録して共有している。夜間や休日、緊急時にはかかりつけ医や協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職(デイサービス兼務)の配置をしており、体調不良や急変時には相談・指示を仰ぎながら、適切な対応が出来るようにしている。緊急時対応の研修として、看護職によるAEDの使用方法や、吸引器の使用方法について実技を交えながら、介護スタッフへの研修を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書と口答にて本人に関する情報提供をしている。面会での訪問時に、地域連携室や病棟、リハスタッフ等との連絡を密に図るようにしており、早期に退院できるような体制を整えている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に『看取りの指針』に基づいてグループホームでの対応について説明している。重度化された場合には、終末期に対する意向を確認しながら、主治医や家族との連携を密に行いながら、可能な範囲で支援するようにしている。	「看取りの指針」をもとに事業所でできる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞いて主治医、看護師、職員と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止部会を中心に、事故報告書・ヒヤリハットについて協議し、事故防止策について検討を行っている。昨年度は、事故報告書の見直しやヒヤリハットの記入について、全体会議にて全職員へ周知し取り組みを行った。ヒヤリハットを多く挙げることで事故防止に努めるようにしている。 所内研修において、応急手当や初期対応、AEDの取扱い、服薬についての研修を行いながら緊急時にも対応できるように努めている。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット、事故報告書に発生場所や発生状況、原因、対応策を記録して回覧している他、リスクマネジメント部会で検討し、月1回ある全体会議で再度話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。今年度から事故内容や職員のかかわり方の詳細を全職員が共有できるように報告書の様式を変更している。事故発生に備えて、年4回、看護師による救急救命法やAEDの使用方法、骨折、ケガ、出血、火傷時の対応について学んでいるが、すべての職員が実践力を身に付けるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルあり。風水害を想定した訓練(7月)、火災を想定した避難訓練(10月/日中想定、3月/夜間想定)を実施している。消防分団員、県住宅管理人の参加にて避難誘導を実施するなど地域との協力体制を整えるようにしている。通報訓練、避難訓練、消化器や散水栓の使用方法、煙体験等の訓練を行っている。	消防分団員の協力を得て、年2回、施設合同で昼夜の火災を想定した避難訓練、通報訓練、避難経路の確認、消火器や散水栓の使用方法、煙体験、救出訓練を実施している。他、年1回、地震・風水害を想定した避難訓練を、利用者、地域の人の参加を得て実施している。消防メールの活用や二次避難場所の検討、消防分団員や民生委員を入れた連絡網の作成等について運営推進会議で話し合い、地域との協力体制の構築に向けて取り組んでいる。非常用食品は備蓄している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止部会が中心となり、言葉使いも含めて不適切なケアでの関わりがないように協議しており、全体会議にて周知している。 プライバシーの保護や個人情報の漏洩防止、秘密の保持など、個人情報保護の取扱いについても所内研修を実施している。	身体拘束廃止部会や接遇部会が中心となって、研修を行い、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。管理者は「利用者は人生の先輩である、尊敬を忘れないように」と常に職員に話している。個人情報の取扱いに留意し、守秘義務を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個人購入品(衣類やエプロン、茶碗や湯呑みや箸等)について、職員の思いで購入するのではなく、必ず本人が買い物に行き、購入品を本人が選択できるようにしている。 献立作成ではお好みメニューとして嗜好品を取り入れた献立作成や朝パン食の希望に合わせて提供している。食材の買出しにも一緒に出掛けており、食材を選択する機会を作っている。 美容に関してもパーマや毛染めの選択、化粧品の購入についても自己決定できるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、家事全般(洗濯や掃除、調理や水遣り等)をその時々状態に合わせて担ってもらっている。どのように過ごしたいか確認しながら、利用者主体を心掛けて関わりを持つようにしているものの、職員側の都合になってしまう場面もある為、職員間での声掛けが必要と感じる。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて、行きつけの美容院でパーマや毛染め、カットに行くなど、美容師や地域住民との関わる機会を作ることで、馴染みの関係性が継続できるようにしている。日常では自分に合った髪型や衣服の選択だけでなく、装飾品の使用、化粧品や衣類など好みの物を選択し購入してもらうなど、その人に合った「おしゃれ」が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食調理を実施する中で、まず献立作成に利用者も参加してもらっている。食材の買い出しや調理、盛り付けなど食事の準備段階から、食後の下膳や食器洗いなど片付けまで出来る所はやってもらいながら、食を通じて楽しむ事が出来るようにしている。朝食は希望される方にはパン食で提供している。また、『お好みメニュー』として嗜好品を取り入れたり、旬な食材や地産地消、バイキングやおやつ作りなども取り組んでいる。季節が良い時には中庭やベランダにて、花や外気に触れながら食事をするなど気分転換を図る機会も作っている。職員も一緒に食事をしており、家庭的な雰囲気の中で食事をしている。	利用者の好みを聞いて献立を立て、法人の栄養士による指導を受けて三食とも事業所で食事づくりをしている。プランターで育てた野菜(トマト、オクラ、大葉、春菊など)や差し入れの野菜、旬の食材を使って調理し、形態や食器の工夫をして提供している。利用者は、食材の買物から下ごしらえ(じゃが芋の皮を剥く、筍の皮を取る、玉ねぎの皮をとる)、調理(ご飯を研ぐ、切る、混ぜる)、茶碗に盛る、食器を運ぶ、盛り付け、後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて趣味の話を弾ませながら一緒に食事をしている。月に一度は利用者のお好みメニューにしたり、バイキング形式で楽しむことをしている。おやつづくり(ホットケーキ、ぜんざい、おはぎ、柏餅、香煎)を楽しみ、中庭でおやつを食べたり、弁当を持って出かけての戸外食、誕生日や家族との外食、季節行事食(おせち料理、恵方巻、節句の寿司ソーメン流し、年越しそばなど)など、食事を楽しむことのできる支援をしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量については、「日々の記録」にて記入し、体重の増減や日常での運動量など健康管理を行っている。水分摂取では、お茶ゼリーや果物やかき氷、飲料の種類を変えるなど目先を変えて摂取しやすいように提供したり、外出時や入浴後、日中の活動時や夜間帯も含めて水分摂取回数を増やすなど工夫している。ご飯茶碗の大きさや塩分制限のある利用者には汁物を薄めて提供している。			
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し、必要に応じて見守りや声掛け、介助を行っている。夕食後の口腔ケアでは、毎日義歯洗浄剤にて義歯消毒を行ない、清潔な口腔環境を保つことが出来るよう努めている。また、歯ブラシやコップ、義歯ケースについても、週1回消毒液にて洗浄している。 適宜、かかりつけ歯科受診も行いながら、口腔内環境の確認をお願いしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	「日々の記録」内にて、個々の排泄パターンや排泄のサインを記録にて把握するようにしている。トイレへの声掛けや誘導を行いながら、可能な限りトイレでの排泄が出来るよう促している。排泄状態に合った用品(紙パンツやパット)を使用するようにしている。	介護記録の排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合った言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便について「日々の記録」内にて確認しながら、排便の状態について職員間で共有するようにしている。 排便を促す為に、起床時の冷水飲用や入浴時の腹部マッサージ、牛乳やヨーグルトを飲用するなど工夫し、水分摂取も細目に行っている。また、テレビ体操や散歩等運動を促すようにしている。便秘症状の利用者は、係りつけ医受診にて緩下剤等を服用している利用者もいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員側の都合にて、午前中で1日置きの声掛けが多く、個々に合わせたタイミングでの入浴が行えていなかったが、午後や夕食後での入浴を対応するなど利用者希望に添えるように工夫しており、寝る前には清拭にて気持ちよく睡眠できるよう支援している。入浴剤や柚子風呂にしたり、入浴中にもリラックスできるようにしている。体調を考慮しシャワー浴を行うなど、無理の無いように配慮している。	入浴は毎日、10時から11時30分、14時から16時、18時から19時までの間可能で、利用者の希望する入浴時間や順番、入浴剤の利用、季節の柚子湯など、利用者の希望や好みに合わせてゆったりと入浴できるように支援している。これまで午前中での入浴時間であったが、利用者の習慣となっている時間に入浴できるように変更している。入浴したくない人には無理強いしないで入浴時間を変更したり、順番を変える、職員の交代、言葉かけの工夫などをして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室だけではなく、共用空間での椅子やソファや畳など休息できる場所を多く設けており、体調に応じて休息を促すなどの声掛けを行なっている。居間ソファにて足拳上し、利用者同士で会話や歌を唄うなど交流しながら休息する機会もある。室温や寝具調節を行うなど気持ちよく休まれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルの見直しや研修を行っており、飲み忘れや誤薬が無いように、処方から服薬確認まで複数の職員で確認を行うようにしている。 薬の説明書をカルテ内にてファイルし、薬の目的や副作用、用法や用量について確認できるようにしている。服薬変更時には申し送りをし、情報共有し変化等あれば記録と報告を行っている。	/		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、生活暦やその時々意向確認しながら、洗濯物を干したり畳んだり、掃除やごみ捨て、調理や花の水遣りなど、家事全般を利用者と職員が一緒に行っている。 ベランダや中庭でプランターを使用しての花や野菜を作ったり、草取りや一輪挿しも行っている。余暇活動として、塗り絵や貼り絵、トランプ、料理やお菓子作りなど、個々の特性を活かせる活動を担ってもらうことで、活躍できる、張り合いのある生活を支援するようにしている。また、ソーメン流しや天麩羅バイキング等食事の中での楽しみを提供することで気分転換も図っている。	掃除(掃除機を使う、箒で掃く、モップで拭く)やゴミ捨て、手すりを拭く、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、シーツや枕カバー交換、布団を干す、食材の買物、食事の準備、調理、後片付け、おやつづくり、亀の餌やり、プランターの野菜や花に水やり、草取り、花を生ける、観葉植物に水やり、ゴミ箱づくり、メニューを書く、テレビやDVDの視聴、CDを聞く、編物、折り紙、ぬり絵、貼り絵、切り絵、かるた、トランプ、お手玉、テレビ体操、手足の運動、ボール投げ、歌を歌う、木琴、脳トレ(点遊び、線遊び、計算、漢字、しりとり、なぞなぞなど)、七夕祭の作品づくり、盆踊り大会、保育園児との交流、外出等、利用者一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	/	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿うことが難しい時もあるが、生活が室内だけににならないように、天候に応じて周辺の散歩だけでなく、思い入れのある場所へのドライブ、季節に応じた外出として花見や七夕祭り、盆踊り、紅葉狩りや梨狩りなど継続して実施している。日常的な外出支援としては、ゴミ出しや買い物(食材や日用品、個人消耗品等)に週4日程度、美容院や理髪店などに出掛けている。	周辺の散歩やゴミ出し、スーパーマーケットに食材の買物、馴染みの化粧品店や美容院の利用、季節の花見(梅、桜、紫陽花、紅葉等)、ドライブ(自宅、城下町等)、初詣、七夕祭り、盆踊り大会、梨狩りに出かけている。家族の協力を得て、一時帰宅や外泊、外出、外食、法事や結婚式への出席等、利用者の希望に添って日常的に出かけられるように支援している。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理希望の利用者は、本人・家族同意にてお小遣い程度所持されている。買い物の際に自ら支払われる利用者もおち、レシートは本人管理で使用金額を記録に残すようにしている。また玄関に設置している公衆電話にて、家族へ電話する方やハガキを購入する方もいる。金銭管理が困難な利用者は施設金庫にて管理しているが、買い物など必要に応じて出金している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関設置の公衆電話をいつでも使用できるようにしており、家族へ電話する利用者もあり、電話代の両替も希望に応じて随時行っている。また、電話の取次ぎにも対応しており、家族からの連絡もあり、居間や自室にて話しをされている。 手紙やハガキを書く利用者もあり、近くのポストまで一緒に投函しに行くなど対応している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には、季節に合った壁面作りや行事写真など構成し、中庭やベランダにはテーブルと椅子を配置し、花や野菜、草木など季節感が感じられるようになっている。廊下にも畳やソファや椅子も設置しており、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。居間においては、精米機の音やご飯の炊ける匂いや調理中の匂い、包丁の音などの生活感が溢れ食欲をそそる空間がある。トイレ内は、朝・夕は毎日、汚れた時にはその都度掃除を行い、トイレは清潔に保たれている。玄関にはセンサーチャイムを設置しているが、チャイム音を不快に感じる利用者もいる為、今後工夫が必要かと思われる。	利用者が集う食堂兼リビングは明るく広く、中庭やベランダに植えてある季節の花や草木が見えて季節を感じることができる。室内や廊下にはソファや畳台、椅子、机、テレビをゆったりと配置し、レクリエーションなどの活動用品が一目で分かる整理棚等があり、利用者は思い思いのところで自由に過ごしている。階段や廊下の壁面には七夕祭りに出展した毎年の作品が飾っており、作品づくりを楽しみにしている様子が伺える。台所からはご飯の炊ける匂いや野菜を切る音が聞こえて生活感を感じることができる。温度や湿度、換気、清潔に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において畳やテーブルやソファ（一人掛け、三人掛け）、テレビ、季節に合わせてこたつを配置し、気の合う仲間同士でランプやゲーム、手作業など行っている。廊下にはカメ水槽があり、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。廊下には畳やソファや椅子を設置し、中庭にもテーブルと椅子を設置することで、花や草木を眺めながら、少人数でも過ごせる空間を設けている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境となるように、畳を設置し布団を敷いて休む方も居る。利用者・家族の希望に応じてベッドや畳も選択できるようにしている。居室では、テレビやCDプレイヤーやラジオ、冷蔵庫、テーブルや椅子、タンスや仏壇、鏡台や姿見鏡、化粧道具、カレンダーや時計、以前使っていた仕事道具など、馴染みの物で安心できる物があれば持参してもらっている。家族の写真や折り紙を並べたり、居室前の暖簾も使用していた物を持参するか、好きな物を自分で購入するか、安心できる居室空間を一緒に作るようにしている。 食事では湯呑、茶碗、汁椀、箸も使い慣れた物を持参し使用してもらっている。	テレビ、CDラジカセ、CD、机、椅子、冷蔵庫、時計、仏壇、衣装ケース、人形、整容道具等、本人が使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーや自作品、お守りを飾って利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や居間や居室、浴室やトイレ内には手すりを設置している。また、洗濯干場への段差解消としてスロープを設置し、安全に安心して生活できるようにしている。 夜間帯の室内履きシューズがスムーズに履けるように、足元灯を設置し、夜間の足元環境を整えている。 立ち上がりや方向転換が不安定な利用者についてはコールマットを設置し、職員が早期に対応できるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 萩市中津江認知症高齢者グループホームなごみ

作成日：平成 30 年 12 月 12 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	<p>○災害対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風水害や火災を想定した避難訓練を年3回実施する中で、地域から地区消防分団員や県営住宅管理人、地区町内会長の協力あり避難誘導を実施している。 ・災害時において、施設や地域としてどのような役割や協力ができるのか。また緊急時の連絡体制についても検討が必要かと考える。 ・消火器や補助散水栓の使用法の訓練は実施しているが、全職員が確実に身に付けられるように訓練を継続する。 	<p>○地域との協力体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の際に、地区消防団員や県営住宅管理人、地区町内会長の協力を得ているが、幅広く地域住民からも協力が得られるような体制を作る。 ・緊急時に地域の協力が得られるように、また地域への協力が出来るような体制を作る。 ・緊急時において、全職員が消火設備の使用法について、適切かつスムーズに行えるよう訓練を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の際に、地区消防分団員や県営住宅管理人、地区町内会長の協力を合わせて、様々な地域住民からの協力が得られるよう依頼していく。 ・二次避難場所である地区公会堂を活用しながら、災害時での地域の役割についても、運営推進会議を通じて検討する。 ・幅広く地域住民の方にも運営推進会議へ参加してもらえるよう声掛けを行う。 ・消防訓練時での消火設備の使用訓練を継続する。 	2年
2	15	<p>○事故防止の取り組みや事故発生時の備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所内研修において、応急手当や初期対応、AEDの取扱い、吸引器の使用法、服薬等について研修を行いながら緊急時にも対応できるように努めている。 ・今後も、緊急時にも適切かつスムーズに対応できるよう、様々な場面を想定しての研修を継続する。 	<p>○研修内容の拡充を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に適切かつスムーズに対応できるように初期対応や応急処置などの研修を定期的に行い、全スタッフが実践力を身につける。 ・係りつけ医との連絡や協力体制を継続し、緊急時の情報伝達が適切に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の所内研修において、様々な場面を想定した応急手当や初期対応など緊急時対応についての研修を組み込みながら、全スタッフが実践力を身につけられるような研修を定期的に行う。 ・看護師の指導による心肺蘇生やAEDの使用訓練、吸引器の使用法等についても継続して行う。 	2年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。